

「愚公移山」の精神をスポーツで

子どもたちに夢の場を提供

(列子の湯問篇)に「愚公移山(愚公、山を移す)」という故事がある。昔、九十歳にもなる老人が、家の前に立ち塞がる二つの山を息子、孫の三人で崩しにかかった。崩した土を北の海に捨てて行くのだが、往復に半年を要した。世間の人々はあき

全国規模のスポーツ大会から地域密着のイベント、また一流選手によるテクニカルクリニックやセミナーを日本全国で開催。バーチャルの世界では味わうことのできない、本当の勝った喜びや負けた悔しさ、そこから生まれる友情を、リアルな場でのスポーツ体験から心と体で感じてもらうとパワフルな活動が続いている。スポーツを通じて、子どもたちの健康で健全な心身を育成し、明るい家族関係をつくりたい…というのが企業理念のひとつだ。中でも日本のスポーツ界を草の根(小中学生レベル)から発展させるために、社会貢献事業としての「子どもたちのスポーツ活動支援」は同社ならではの独壇場。『スポーツひのまるキッズプロジェクト』はスポーツをする子どもたちの夢の場であり、保護者、指導者、競技団体、地方自治体からの期待も大きい。まさに愚公移山の如く、根気よく努力し頑張る子どもたちは国の宝でもある。